

# 令和7年度自己評価書

学校名：橋本市立隅田小学校

校長名：入江 俊夫

作成日 令和8年 2月 10日

## 1 今年度の教育目標

<p>『やさしく かしこく たくましく』 ～夢や目標をもち 未来を拓く 児童の育成～</p>
--

## 2 今年度の重点目標

<p>○豊かな心の育成（道徳教育の推進、特別活動・特別活動の充実、市民性の育成、人権教育の推進） ○確かな学力の育成（基礎基本の徹底、学ぶ力の育成、学びに向かう態度の育成、学習習慣の確立） ○健康・安全教育の充実（基本的な生活習慣の確立、健康・体力の向上、安全教育の推進） ○保護者・地域との連携（保護者・地域との連携強化、学校運営協議会及び共育コミュニティとの連携、 こども園・中学校との連携、学校ボランティアとの連携）</p>
---

## 3 評価項目の取組及び達成状況

A：達成できた B：概ね達成できた C：取り組んでいるが、成果が十分でない D：取組が不十分である

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
豊かな心の育成	<input type="checkbox"/> 特別の教科「道徳」の充実  <input type="checkbox"/> 体験活動の計画的な実施  <input type="checkbox"/> 学級活動の充実	<p>■本校の目標である「心豊かなすみだっ子をめざす道徳教育」では、道徳教育をもとに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を目指してきた。その要となる道徳の授業については、100%の担任が計画的に実施できた回答している。道徳の授業について重きを置いていることがわかり、地道に授業が行われている。</p> <p>■本校では、道徳教育推進教師を中心に、校内の研修会を自主的に実施している。今年度は回数的に少なくなっているが、この取組があることにより、本校の道徳教育が厚みを増していることから、今後も継続させたいと考えている。</p> <p>■生活科や総合的な学習の時間を活用し、計画的に体験活動を実施してきた。3年生のゴマ栽培の中では、ごま豆腐作り体験、5年生の防災学習では自主的に計画を行い、避難訓練の実際や市の危機管理室の方を招いて体育館で実際の避難所体験を行った。その他にも、真土万葉保存会の方々に毎年お世話になり、芋ほり体験（1年・4年）なども行っている。本校は、県や市の出張講座にも積極的に応募・参加し、その機会を確保している。いのちの学習、福祉体験学習などを含め、これらの様々な体験が子どもたちの心を豊かにし、健やかな成長につながるものと考えている。しかし、体験すること自体を目的とせず、事前・事後の学習を大切にしながら、今後も体験活動を充実させていきたい。</p> <p>■PTA主催の体験活動「サマーチャレンジ」は、夏季休業を利用して2日間開催した。今年は、体を動かす機会を多く持ち、剣道体験やドッチビーなどを新たに計画して行った。開催時期、運営方法は昨年度と同様に行われ、来年度以降も計画していきたいと考えている。</p> <p>■学級は集団生活の基盤であると同時に、児童の居場所でもある。市民性を育てる大きな役割も果たしている。今年度は各担任より学級経営案を提出させ、目指す学級の姿を達成するため日々取組を進めてきた。教職員アンケートでは、「係や当番、委員会、児童会活動などとおして、学級や学校の一員であることを意識させられましたか。」という問いに95%、「学級活動などとおして、互いの人権を尊重する学級集団づくりに努めましたか。」</p>	B

	<p>□児童会活動 及び 縦割り活動の活性化</p> <p>□仲間づくり活動の 充実</p> <p>□人権教育の 計画的な実施</p>	<p>という問いには100%の担任が肯定的な回答をしている。また、「学級のルールづくり等、児童の主體的な活動の充実を図りましたか。」という問いには93%、「児童一人ひとりの変化に気を配り、言葉がけに努めましたか。」という問いには、100%の教員が肯定的な回答をしている。これらの結果から、概ね目標は達成できていると判断できるが、児童アンケートにおいて「学校が楽しくない。」と回答した児童が数パーセントいる実態を踏まえると、今後も学級づくりに力を入れていく必要性を感じている。</p> <p>■各委員会では、学校全体の課題に向き合い、その解決方法を児童が主体的に考え、実践したり啓蒙したりしている。それらを統括する代表委員会も意見が活発に交わされ、解決するための方法を児童自らが考え行動しようとする雰囲気醸成されている。児童会の活動では、制帽や名札の着用を点検し、啓蒙活動を行ったり、委員会の活動としてごみのポイ捨てについて注意喚起の掲示を行うなどが一例である。挨拶運動や募金活動も積極的に実施している。自分たちの学校をよくしようとするこれら児童主体の営みは、今後も継続していきたい。</p> <p>■1～6年生の縦割り班を作り、異学年交流が活発なるよう、全校スポーツテスト、なわとび大会など数多く実施することができた。今年度は全校集会の機会を多く取り、全校の絆を深めてきた。この姿は、隅田小学校の伝統として引き継いでほしいと願っている。</p> <p>■97%の児童が「友だちとなかよくしている」と回答している。各学級では、休み時間を活用した「みんな遊び」を計画したり、お楽しみ会を実施したりして仲間づくりを行ってきた。しかし、疎外感を感じている児童がいたり、休み時間になると保健室を訪れる児童がいたりすることも事実である。自分本位の言動が見られる子もいる。一人ひとりが認め合い、互いに尊重し合える仲間づくりを意識し、今後も取組を継続したい。</p> <p>■「いじめはぜったいに許さない」という強い意志をもち、常日頃よりアンテナを高くして、いじめの早期発見を目指している。また、「いじめアンケート」（なかよしアンケート）を年3回実施し、児童の声にも真摯に耳を傾けている。児童の回答については担任が確認し、事実確認や指導を行う。聞き取った内容や指導したことはデータ化し、最大3ヶ月間の経過観察を実施している。しかし、いじめ認知数が横ばい（微減）である現状を踏まえると、どの子も受け入れられる温かい学級づくりの大切さを再認識する必要がある。</p> <p>■児童玄関に掲示している「やさしさの木」プロジェクトは今年度も継続し、本当の「やさしさ」が学級の中で溢れるよう各担任が意識的に取り組んでいる。各学級で生まれたやさしさは全校で共有し合い、学校全体の人権感覚が高くなるよう今後も継続していきたい。</p>	
<p>確かな学力の 育成</p>	<p>□朝の学習の時間の活用・改善</p> <p>□補充学習の実施</p>	<p>■朝の学習の時間は、全校一斉で、月曜日：「読書の日」、火曜日：「文法・読解」、木曜日：「計算検定」と設定している。また、5・6年生は、読売新聞の学習教材「よむYOMUワークシート」を活用し、読む力や互いの考えを共有している。今後は、学年それぞれに抱える課題を分析・把握し、基礎的な力を定着させられるよう、PDCAサイクルを意識した取組を進めたい。</p> <p>■本校では、16時の下校時間までを活用し、特に気になる児童に対する補充学習を行っている。また、夏季休業中にも学習教室を同様に実施している。しかし、児童アンケートで「学習がわかりづらい」と回答した児童が低学年で20%、高学年で12%存在した。これは、家庭学習の不十分さとも関係している。家庭学習ができていないとする児童は低学年で8%、高学年で15%である。特に、基礎学力の定着や反復学習が必要な低学年は、保護者の協力が必要不可欠である。本校では、金曜日の6限目を活用した低学年の放課後学習教室を実施している。わかる授業はもちろん、個に応じた宿題の出し方や、家庭学習の在り方について研</p>	<p>B</p>

	<p>□研究組織の活性化・授業改善</p> <p>□授業研究の充実</p> <p>□ICTの活用</p> <p>□学習規律の確立</p> <p>□家庭学習の充実</p>	<p>究する必要性を感じている。</p> <p>■「考えることを楽しむ子の育成」を研究主題とし、「生活向上部・学力向上部・分析部」の3つの部会からなる研究組織をもとに研究を進めている。各研究部は、横のつながりを大切にしながら、主体的に活動を行い、組織の活性化が図れている。今年度から「伝え合う」をテーマに「すみだっ子伝え合いルーブリック」を設定し、児童にも伝達しながら進めている。本校が大切にしていることは、すべての教員が同じベクトルを向いてチームとして研究を深めることである。指導案の検討会も熱を帯びるようになってきている。今後も、外部の指導を得ながら、授業力向上に向け研鑽に励みたい。</p> <p>■今年度も和歌山大学教職大学院 藤本先生にご指導を仰いでいる。研究授業の指導講評だけでなく、若手教員の公開授業にもご指導いただき、授業力を高めるための取組を行っている。研究協議も年々充実し、焦点を絞った討議を行えている。和歌山県学習到達度調査（4・5年生）においては、県平均に比べ、結果が下回っているところであり、これら各種学力テストの分析を行い、教職員で共有しながら学習を進め、今後もこの研究体制を継続していきたい。</p> <p>■「考えを自分の言葉で発表できる」と回答した児童の割合が低学年で69%。高学年で65%となった。「伝え合い」を進めていくために、教室でも聞き方の工夫や、机の配置などの工夫が行われているが、発言しにくい子どもたちには、自信をもって話せない子が3割程度存在する。自分の考えをアウトプットすることは、主体的な学習にもつながるため、意図的に表現の場を設定し、「伝え合い」の力を伸ばしていけるよう、引き続き取り組みを続けていきたい。</p> <p>■一人1台のパソコンは、低学年を含め多くの児童が扱えるようになってきている。高学年では、オクリンクを使って、自分の考えを先生に送り、全体共有することもできる。しかし、その意見を効果的に授業にどう生かしていくか、電子黒板にどう提示していくかが、現在抱えている教員の悩みである。調べ活動で活用したり、繰り返しのドリルパークをしたりするだけでなく、個別最適な学習を進めるための方法を日々模索しているところである。教職員アンケートでは、4割の教員が、ICTの活用について課題を感じている。ICTの活用が進まない要因としては、危機の老朽化や破損による不備が挙げられる。不具合や破損には市当局も対応しているが、追いついていないところが現実であり、ジレンマを感じている。令和8年度には新しい端末が整備されることになるので、有効利用できるよう研修も進めていきたい。</p> <p>■すべての教員が学習規律を意識して授業に臨もうとしているものの、実際には、学習に集中して取り組めない子、注意されてもつい私語をしてしまう児童が見受けられる。その結果、教員アンケートでは、「学習規律を大切に、学ぶ雰囲気醸成できましたか。」という問いの達成率は72%に留まった。学級規律は、学級経営が大きく関係している。若手教員が増える中、悩みながら学級経営を行う姿も見受けられる。授業力と学級経営力の両輪が上手くかみ合うよう、引き続き助言を行ってきたい。そのような中、今年度は「生活ルール」として5点を挙げて取り組んできたが、特に「チャイム着席」についてはどの学級も力を入れており、結果として子ども達に定着しつつある。また、生活向上部においては「隅田小スタンダード」として持ち物、準備物について、わかりやすく表に表して提示している。これが浸透させ、学習がスムーズに行われるように指導をしていきたい。</p> <p>■保護者アンケートでは、23%の保護者が、学習内容の定着に不安を待たれており、41%が学習習慣の定着がきちんとできていないと回答している。家庭学習については、85～92%の児童ができていないと回答していることから、保護者の結果と大きな差異が見られる。宿題だけではなく、自主学習など児童の学力につながる学習に対する意識の違いがあるように感じる。共働き</p>	
--	--	--	--

	<input type="checkbox"/> 読書活動の推進	<p>家庭や片親家庭が増加し、子供と向き合う時間が減少していることも否めない。今後も、効果的な量と質を吟味するとともに、家庭に協力を求め、連携を強めて定着を図ることが必要であると考えている。</p> <p>■第2図書室を開設して3年目に突入した。今年度は1年生が2学級編成となることから、第2図書館が2階に移動している。1年生の読書習慣を鑑みて低学年向きの蔵書を意識しているので、その機会が少なくなり、使い勝手が悪くなっている。校舎内の位置関係においても再考する必要がある、来年度に向けての課題である。</p>	
健康・安全教育の充実	<input type="checkbox"/> 生活リズムチェックを活用した生活改善  <input type="checkbox"/> 各種校内大会の実施  <input type="checkbox"/> チャレンジランキングの活用  <input type="checkbox"/> 計画的な安全教育及び避難訓練等の実施	<p>■本校では、年間3回、生活アンケートを実施している。学年に応じた目安(目標)を定め、各自がそれに向けた生活改善に取り組んでいる。その結果は、生活向上部で分析し、特に課題と思われる部分について、もう一度学級に返して話し合う活動を取り入れている。取り組みによって数値が上がることもあり、その結果によって、学級で話し合い活動を進めるなどの取り組みを行っている。生活リズムの改善は、保護者の協力も必要不可欠であるため、これらの結果を保護者にフィードバックし、家庭での協力も仰いでいる。</p> <p>■今年度予定していた校内大会(水泳大会・マラソン大会・なわとび大会)については、すべて実施できている。マラソン大会では、今年度も保健体育部(PTA)の皆様の協力を得て、子どもたちに豚汁の提供を行った。各種校内大会は、本番だけでなく、目標達成に向けた練習の過程と振り返りが重要であり、キャリア教育とも密接に関連する。また、児童の体力の向上にも大きく寄与していることから、来年度も引き続き実施していきたいと考えている。</p> <p>■教職員アンケートでは、チャレンジランキング(学びの丘)の活用は27%で昨年度の反省が生かされなかったが、スポーツテストの結果を活用した授業については73%となり、昨年より達成率が上がっている。「適切な運動量を確保できるよう、体育の授業を工夫しましたか。」という問いでは、100%の教員が概ね達成できており、意識的な取組が見られる。体育の授業においては、十分な運動量を確保するとともに、スポーツテストの結果を踏まえた運動を取り入れていく意識が高まっており、来年度は、チャレンジランキングの活用に力を入れて、取り組んでいきたい。</p> <p>■当初計画していた学校安全計画は、概ね計画どおり実施することができた。例年実施している1年生の歩行指導、計画的な安全点検、引き渡し訓練などは、繰り返し行うことでその意識が高まるため、引き続き来年度も計画していきたいと考えている。</p> <p>■避難訓練は、計画どおり「火災」「地震」「不審者」に対応する訓練を実施した。不審者対応訓練では、橋本警察署・青少年センターの協力を得て、実際に犯人が校舎内に侵入し、警察官により確保されるまでの実践的な訓練を行った。この訓練により、非常事態における各教員の動きについて確認することができた。来年度も実践的な訓練を実施し、臨機応変に対応できる職員体制を構築していきたいと考えている。</p>	B
保護者・地域との連携	<input type="checkbox"/> 保護者・地域への情報発信及び教育相談体制の充実	<p>■教育目標や取組の伝達については、89%の保護者から評価いただいている。学校ホームページの更新や学校便り「すみだっ子」・学年便りの配布に加え、多くの学級が学級便りを配布している。また、地域版学校便りも継続して発行し、意識的な情報発信を行ってきた。しかし、保護者アンケートから、14パーセントの家庭が配布物をあまり確認していないとの実態が見えている。学校からのメール発信には反応していただけるものの、保護者に各種便りを見せない児童もいることや紙媒体を目にしにくい保護者が増えていることが考えられる。今年度はメール配信ツールをしてのライデンメールが契約期間を終え、新しく「tetoru」が導入され、日々の欠席連絡もスマホなどの端末機器から連絡いただけるようになった。「tetoru」からの連絡配信の機会も増え</p>	B

	<p>□学校運営協議会の活性化</p> <p>□共育コミュニティとの連携</p> <p>□地域人材との連携強化</p> <p>□地域ふれあいルームの充実</p>	<p>つつあり、紙媒体とのバランスも検討の必要が出てきている。</p> <p>■84%の保護者が「相談しやすい学校」と感じていただいている。これまでも、保護者からの相談に真摯に向き合い対応を行ってきたものの、11%の保護者がそう感じておられないことも事実である。学校への相談は、子育てや友だち関係に関するものが大半を占めるが、保護者の不安を取り除き、信頼関係の構築にもつながることから、引き続き相談しやすい学校づくりを目指していきたい。日々の細かいことの連絡から、保護者との連携関係が生まれていくことを学校全体で意識して、関係づくりを行ってきたい。</p> <p>■本年度、学校運営協議会は、3回開催した。また、学校参観日や平常時の参観も設定し、委員の方々に児童の普段の姿をご覧いただくことができた。運営協議会では、児童の交通安全、地域との連携、ボランティアの固定化・高齢化などが大きな論点となっている中、様々な提案がなされている。運営協議会で話し合われる内容や成果は、学校だよりも紹介し、情報発信を行っている。</p> <p>■隅田中学校校区共育コミュニティでは、これまで同様、地域の活性化を目指して様々な取組を行っている。すみっしープロジェクトの啓発、園・各校や健全育成との連携を常に念頭に置き、話し合いを進めている。保育士による読み聞かせ会の実施、5歳園児との交流会、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの共有など、園とのかかわりは昨年に引き続き進めている。</p> <p>また、「わいわい集会」では、近藤朋美さんを講師に招き、「やさしい日本語」と題し、地域で増加傾向にある外戸籍の方々との共生についてお話をいただき、それをもとに話し合いを行った。本校でも外国籍の児童が就学しているが、学校だけの取り組みではなく、地域で取り組んでいくことを考える機会となった。</p> <p>■地域の皆様には日頃よりご協力をいただいております。昨年度に引き続き、家庭科ミシン補助（5年生）、九九学習補助（2年生）、図書館ボランティア、低学年の放課後学習教室など、共育コーディネーターのご尽力や地域の方々のご協力により、多くの場面でお力添えをいただいた。また、校内に生け花をいけていただいたり、クラブ活動などでもご協力をいただいたりしている。しかし、新たな地域人材を確保することが近年の課題であり、保護者の参加も促すなど、保護者・地域全体で学校を支えていただけるよう、今後も、情報発信や啓蒙活動により、良い方向に進めていきたい。</p> <p>■放課後ふれあいルームは、概ね計画どおり実施することができた。この活動は、共育コーディネーターと連携し、児童の放課後の活動を企画・運営するものである。楽しみにしている児童も多く、毎回多くの児童が申し込みを行っている。放課後の居場所作りでもあるため、来年度もできる限り、実施していきたいと考えている。</p>	
--	--	---	--

#### 4 保護者アンケート集計結果から見てきた成果や課題

##### 【成果】

○学校全体に関する評価項目の多くが、85%を上回っている。特に、「学校は、教育目標や学校の取組・課題等について、学校だよりやホームページ等を通じてわかりやすく伝えている」「学校は、子どものよさを認めたり、ほめたりしている」が最も高く89%となっている。こまめなHPの更新や定期的に発行する学校便り・地域版学校だよりを見ていただいている方々の評価であり、子ども達に対して、一人一人のよいところを認めながら成長を促している様子が伝わっている結果であると考えている。

##### 【課題】

△「学校は、仲間づくりやいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」については、保護者の75%が肯定的な回答をしているが、15%の保護者が否定的な回答となった。数字の上では昨年度と変わっていないが、やはり学校内での仲間づくりやいじめの問題について、不安を感じている保護者がいることについて、しっかりと受け止め、学級づくりやいじめ問題への対応についてアンテナを高くし、取り組んでいく必要があると感じている。

△学校行事やPTA行事への参加率も伸び悩んでいる。共働きのご家庭が増える中、学校教育に関心を持ち、足を運んでいただけるようになるかが今後の課題である。

△家庭での読書については、6割強の保護者が否定的な回答であった。「家読」の取り組みを今年も進めてきており、家庭で落ち着いて読書する習慣を多く取っていただけるよう、来年度も取り組みを続けていきたい。

#### 5 今年度の取組の成果と課題・改善方策

- (1) 研究体制は、今年度より方向性を前に進めながら取り組んできた。その中で「伝え合う」ことに対する意識が高まり、学級全体や教員の授業運営にもよい影響が出てきている。研究授業の中では、「伝え合う」ことを重視することから、授業展開について再考する必要もあるが、今年度の内容を振り返り、来年度の取り組みに繋げていきたい。また、4・5年生の県学習到達度調査では、全体的に県平均を下回ることになった。今回の結果を受け、データの活用、それをもとにして自分の考えを書き表すことについて、日頃の授業や朝の学習など様々な機会をとらえて強化に努めていきたい。
- (2) 共育コーディネーターはもちろん、学校ボランティアや多くの地域の方々にご協力をいただき、様々な体験活動や地域学習、放課後ふれあいルーム等を充実させることができた。また、低学年を対象とした「放課後学習教室」も継続できている。地域には、ご協力いただける様々な人材がおられるが、その方々の高齢化が進んでいることも事実である。新たな人材の発掘は急務であるため、PTAと協力してこの課題に取り組んでいきたいと考えている。
- (3) 児童の学校での生活について、今年度は今までの視点に加え、ルールを明確にするようにしてきた。そのことにより、方向性はわかりやすくなっているが、それを浸透させるところが現在の課題である。常に念頭に置いて取り組みを進めるように意識し、学校全体にあたりまえのこととして定着させ、学習規律、生活ルールの確立が今後への課題であると考えている。